





亀山市 認知症ケアパス

認知症の人やご家族が認知症の状態に応じて、いつ、どこで、どのような医療や介護サービスを受ければよいのかサービスの流れをわかりやすく示したものです。認知症の状況は個人により異なりますので必ずしもこの経過をたどるわけではありませんが、今後予測される症状や状態の変化の目安として参考にしてください。

		健康 → 軽度認知機能障害(MCI)	初期 誰かの見守りがあれば生活できる	中期 手助けや介護が必要	後期 常に介護が必要
認知症の変化する症状	本人の様子 (症状や行動)	<ul style="list-style-type: none"> 「あれ」「それ」などの代名詞が話の中で多くなる。 物忘れが増え、本人も変化を感じる。 積極的に出かけなくなる。 性格に大きな変化はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 何度も同じことを話したり、聞いたりする。 通帳など大切なものの保管場所が思い出せずに探し回ることが増える。 料理、家事などミスが多くなる。 物忘れや失敗を隠そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 料理の手順を間違える。 薬を飲み忘れる。 季節感のない洋服を着たり、着る順番を間違える。 財布や通帳を盗られたなどの妄想をもつ。 トイレの場所がわからなくなり、排泄に失敗する。 失禁を隠すために、汚れた下着を隠す。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物でないものを食べようとする。 排泄物を手で触る。 自分がいる場所がわからなくなり、外出して帰れなくなる。 家族の顔や名前がわからなくなる。 言葉によるコミュニケーションが難しくなる。
	生活の中で困ること	<ul style="list-style-type: none"> 生活に支障をきたさないため、特に困ることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝言を忘れ、行き違いが起きる。 重要な郵便物を紛失し、手続き等に支障がでる。 食品を腐らせることが増える。 鍋を焦がし、火の取扱いに注意が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 薬を飲み忘れてたり、飲み過ぎてしまい病状を悪化させる。 金銭管理ができず、公共料金などの滞納が起こる。 家に帰れなくなることがある。 着替えなどに声かけや見守りが必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思疎通が困難で、本人の思いを理解しにくい。 食事、排泄、入浴等に介護が必要になる。 外出しても帰れず、行方不明になる。
	家族の気持ち	<p>「年齢のせいだろう」「言えばできるはず」など、否定や戸惑いの気持ち。悩みを打ち明けられず、一人で悩む。これからどうなっていくのだろうと不安になる。</p> 	<p>「なぜこんなことをするの」本人を拒絶するようになる。身近な人にだけ症状が強くなる。</p>	<p>「何回言えばわかるの」と怒りや混乱。相手のペースに振り回され、疲れ切ってしまう。</p>	<p>本人に怒ったり、イライラしてもしかたがないと、諦め、割り切れるようになる。ありのままの本人を受け入れる。最後の過ごし方や看取りが心配になる。</p>
	心構えや準備	<ul style="list-style-type: none"> 役割を持ち、今までやってきたことを続けていきましょう。 「おかしい」「いつもと違う」と思った時には、早めに相談窓口を利用しましょう。 友人や地域とのつながりを大切にしましょう。 かかりつけ医を持ちましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症や介護のことを理解して、その人に合った接し方を心がけてみましょう。 規則正しい生活を心がけたり、出掛ける機会を増やしてみましょう。 元気なうちから、どのような医療や介護を望んでいるかなど本人の意思を確認しておきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の役割を全て奪わず、できることはしてもらいましょう。 悩みを抱え込まないように相談相手を見つけたり、同じ立場の人の集まりに参加してみましょう。 どのような医療や介護のサービスがあるかを知り、がんばりすぎない介護を心掛けましょう。 身近な人には伝えて、認知症の理解者や協力者をつくらしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護する家族の健康や生活も大切にしましょう。 意思表示をすることが難しくなったとしても、本人が「どのように過ごしていきたいのか」といった意思が尊重されるように、主治医や担当ケアマネジャーなどと相談しましょう。 
	相談	①地域包括支援センター ②カナリアチーム(亀山市認知症初期集中支援チーム) ③鈴鹿亀山消費生活センター ④三重県認知症コールセンター ⑤運転免許センター内相談窓口 ⑥成年後見相談窓口(成年後見サポート事業) ⑦介護者のつどい ⑧コミュニティソーシャルワーカー ⑨カナリアカフェ(認知症カフェ) ケアマネジャー(介護支援専門員)			
社会参加・予防	⑩老人クラブ ⑪ふれあい・いきいきサロン ⑫介護予防教室 ⑬出張介護予防教室 ⑭認知症を予防する教室 ⑮総合事業(訪問型・通所型サービス) ⑯カナリアカフェ(認知症カフェ)				
医療	⑰認知症疾患医療センター ⑱訪問看護 ⑲かめやまホームケアネット ⑳居宅療養管理指導				
見守り活動	㉑民生委員・児童委員 ㉒福祉委員 ㉓認知症サポーター ㉔配食見守りサービス				
生活支援	㉕日常生活用具(電磁調理器、火災報知器など)の給付 ㉖緊急通報装置の設置 ㉗成年後見制度の利用 支援 ㉘認知症高齢者等見守りシールの交付 ㉙徘徊探索装置の給付 ㉚認知症等高齢者等個人賠償責任保険 ㉛介護用品の支給 ㉜日常生活自立支援				
介護	㉝介護保険サービス(訪問介護・通所介護・認知症対応型通所介護・短期入所生活介護・短期入所療養介護・福祉用具貸与・特定福祉用具販売・住宅改修費支給・小規模多機能型居宅介護)				
住まい	㉞有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅 ㉟グループホーム(認知症対応型共同生活介護) ㊱介護老人福祉施設・介護老人保健施設				

相談機関や利用できるサービス ※詳細は10頁